

鹿島港で危険物倉庫 成田拠点とも連携

朝日森運輸（千葉県成田市、竹蓋雅幸社長）は鹿島港後背地で危険物倉庫の整備を進めている。約8000平方メートルの用地に1000平方メートルの倉庫3棟を建設する計画で、1期棟は昨年11月に開業。間もなく2期棟の開業も予定する。茨城・千葉など近郊の危険物保管需要の取り込みを図るとともに、成田空港近郊で梱包・輸出手配などを行う拠点へのミル克蘭輸送も提供し、保管から輸出までの航空一貫物流も提供する。



鹿島地区で建設した危険物倉庫外観

危険物倉庫は鹿島港の南海浜地区の敷地（神栖市南浜1-23）で整備している。消防法で定める危険物倉庫として建設。同地区周辺では、荷主工場を含め倉庫の老朽化が進み、新型の危険物倉庫が少ない。一方で、適切な施設・手順で、コンプライアンスを遵守した保管サービスを求めるニーズが高まっていることもあり、倉庫建設を決定したという。

2期棟は4月の開業予定で、既に案件も決定している。1期棟、2期棟では主に化学品を取り扱う。3期棟も既に着工している。設備面では、粉末消火機器、防爆フォークリフトなど最新機器を導入。竹蓋雅幸社長は「高機能で最新の倉庫

を提供することで、荷主の求める安全性やコンプライアンス遵守のニーズに応えていく」と話す。鹿島地区では危険物ディプロマ取得者15名も在籍中、高品質な貨物取り扱いも実現する。

成田地区の拠点を生かした物流サービスも提供する。同社は成田空港外において、成田東部物流センター、成田南部物流センター、成田セントラルディストリビューションセンターといった複数拠点を運営。成田空港から輸出される貨物の一時保管、梱包、輸出請負など、メーカー、フォワーダーのサポート業務を手掛

けている。県道44号成田・小見川・鹿島港線を利用し、成田と鹿島拠点間のミル克蘭輸送を行う。成田拠点のうち、特に成田東部物流センターでは、従来の航空貨物梱包で実施している多種多様な梱包資材や機材を活用し、商材に応じた梱包スタイルへの処理、航空会社までの配送が可能。同センターでは危険物倉庫も完備しており、出荷待ち待機保管の発生時に対応できる。

鹿島地区ではまた、高機能な倉庫での危険物以外の保管需要も多いことから、一般倉庫の建設も予定している。既に鹿島港の北海浜工業団地内で用地を確保しており、1万平方メートル規模の倉庫を検討しており、来年にも着工したいとの意向だ。同社は創業（1988年）からほどなく、鹿島工業地帯の工場から総合構内請負業務を複数受注し、本社も2015年の成田移転まで鹿島地区に置いていた歴史もある。